

「ひとりにしないという支援」

地域の中で立ち直るということ―地方公共団体との協力の在り方

2024年7月4日法務省自治体向け説明会

奥田知志

東八幡キリスト教会

NPO抱樸

ホームレス支援全国ネットワーク

全国伴走型支援推進協会

生活困窮者自立支援全国ネットワーク

全国居住支援法人協議会

共生地域創造財団

全国日常生活支援住居施設協議会

日本福祉大学 客員教授

抱樸(ほうぼく)

「ひとりにしない」と言う支援

- 老子の言葉「素を見し樸を抱き」
- 樸＝原木/荒木のまま抱く
- 原木/荒木は無限の可能性を持つ
- 荒木ゆえに傷つく＝絆は傷を含む



基本コンセプト

経済的困窮（ハウスレス）

社会的孤立（ホームレス）

⇒ハウスとホームは違う

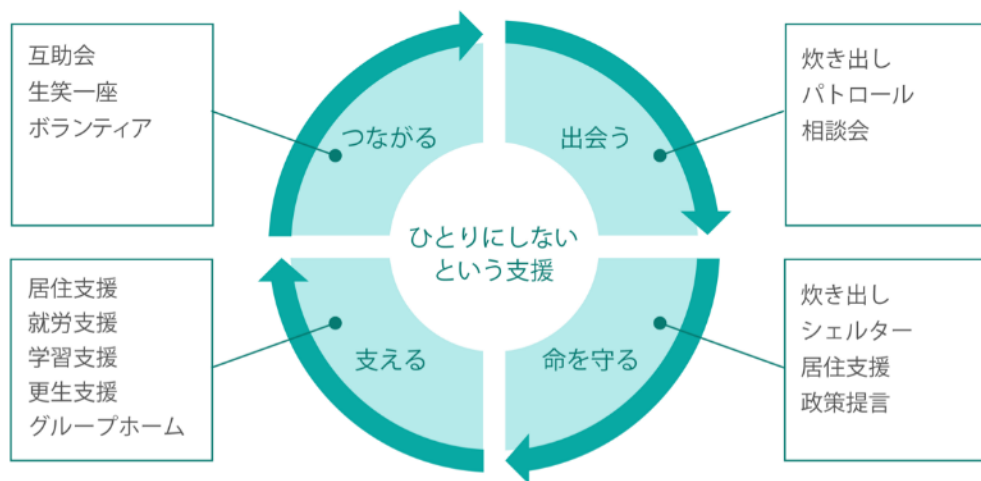
1990年ホームレス襲撃事件

「帰るところがない。誰かも心配されていない」





抱樸の活動



35年

抱樸は1988年から
活動を行っています

↑ 人
3,716人

抱樸の活動によって
ホームレス状態から
自立した人数

♡ 人
1,076人

現在も継続して
サポートしている人数

人
1,923人

ボランティアとして登録している人数

食
151,025食

炊き出しで配ったお弁当の数

☎ 件
147,433件

路上生活者ら
からの相談の数

人
11件

厚生労働省など
省庁の政策立案や
審議会に参加した件数

事業
27事業

子どもから大人まで
包括的な支援

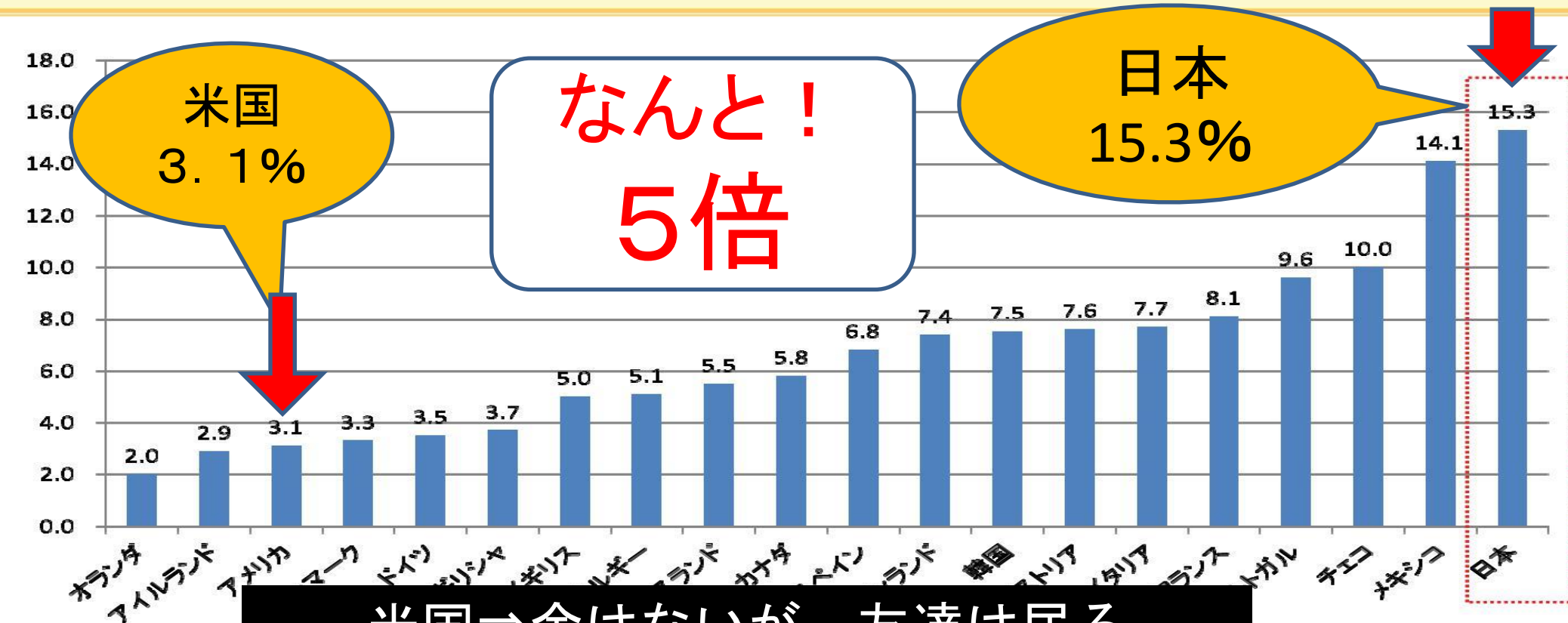
社会的孤立と伴走型支援

社会的孤立の調査 OECD諸国の比較

※相対的貧困率(2012年) 米国17.4% 日本16.1%

「家族以外の人」と交流のない人の割合（国際比較）

○ 日本では「友人、同僚、その他の人」との交流が「全くない」あるいは「ほとんどない」と回答した人の割合が15.3%あり、OECDの加盟国20か国中最も高い割合となっている。



(注) 友人、職場の同僚、その他の人との交流が、「全くない」

米国⇒金はないが、友達はある
日本⇒金もないが、友達もいない

「全くない」あるいは「ほとんどない」と

Glance:2005 edition,2005,p8

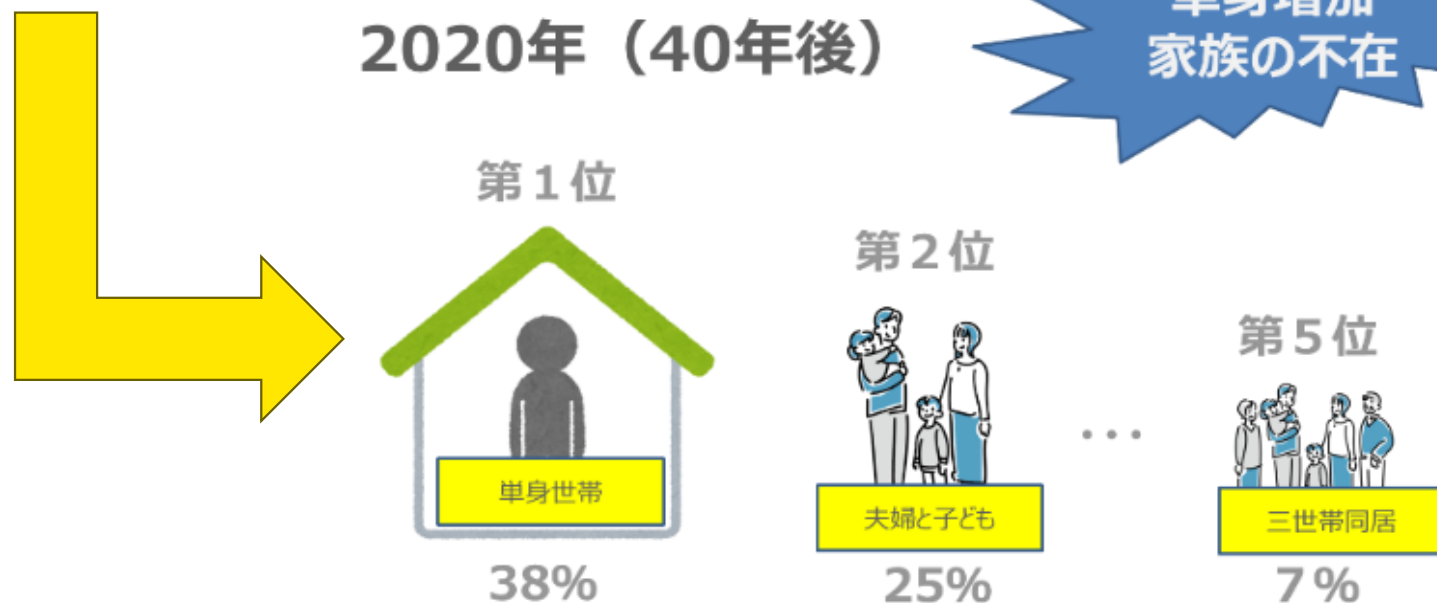
施設ほどではない 支援が必要な 理由

昭和55年（1980年）



（資料）内閣府男女共同参画局（2022）『結婚と家族をめぐる基礎データ』2022年3月2日

2020年（40年後）



（資料）内閣府男女共同参画局（2022）『結婚と家族をめぐる基礎データ』2022年3月2日

病気の時や日常生活に必要な作業について頼れる人の有無 (国際比較)

(※複数回答)

	60歳以上の単身者が頼れる人 (2015年)				
	別居 家族	友人	近所の人	その他	頼れる人 なし
日 本	67.3%	21.1%	15.8%	7.0%	12.9%
米 国	55.9%	48.0%	27.0%	9.2%	13.1%
ドイツ	63.3%	46.0%	45.0%	5.9%	6.1%
スウェーデン	58.0%	49.1%	30.1%	9.6%	9.2%

(資料) 藤森克彦(2016)「単身高齢世帯(一人暮らし高齢者)の生活と意識に関する国際比較」(内閣府政策統括官(共生社会政策担当)『高齢者の生活と意識－第8回国際比較調査結果報告書』2016年3月)。

日本人の
意識
👉身内頼み

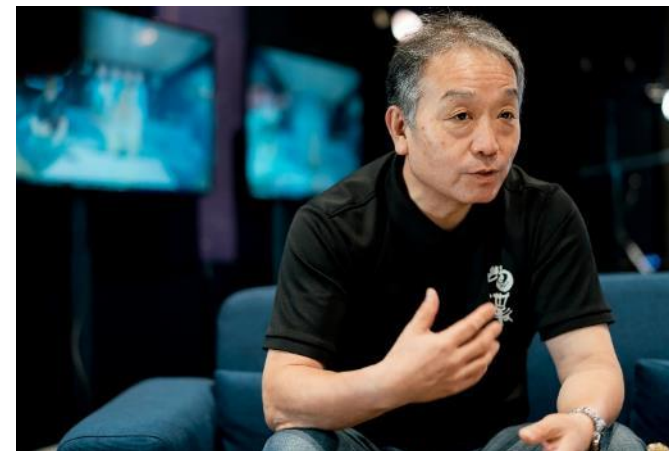
ホームレス状態
誰が見ても困っている
しかし、助けてと言えない
何が足りない？

その気

内発的な動機
外発的な動機



高橋源一郎さん 「人とのつながりがことばを生む」



奥田 つながりや関係が無くなることが問題

高橋 つながりが無くなるということは「ことばを失う」ということですね

奥田 「ことばを失う」ということは「その人の物語」が失われるということです

エサと弁当

社会保障（国の役割）

1 地域共生社会の理念とその射程

○日本の社会保障は、他の先進諸国同様に、人生において典型的と考えられるリスクや課題を想定し、その解決を目的として、それぞれ現金給付や福祉サービス等を含む現物給付を行うという基本的なアプローチの下で、公的な保障の量的な拡大と質的な発展を実現してきた。

現金給付と現物給付

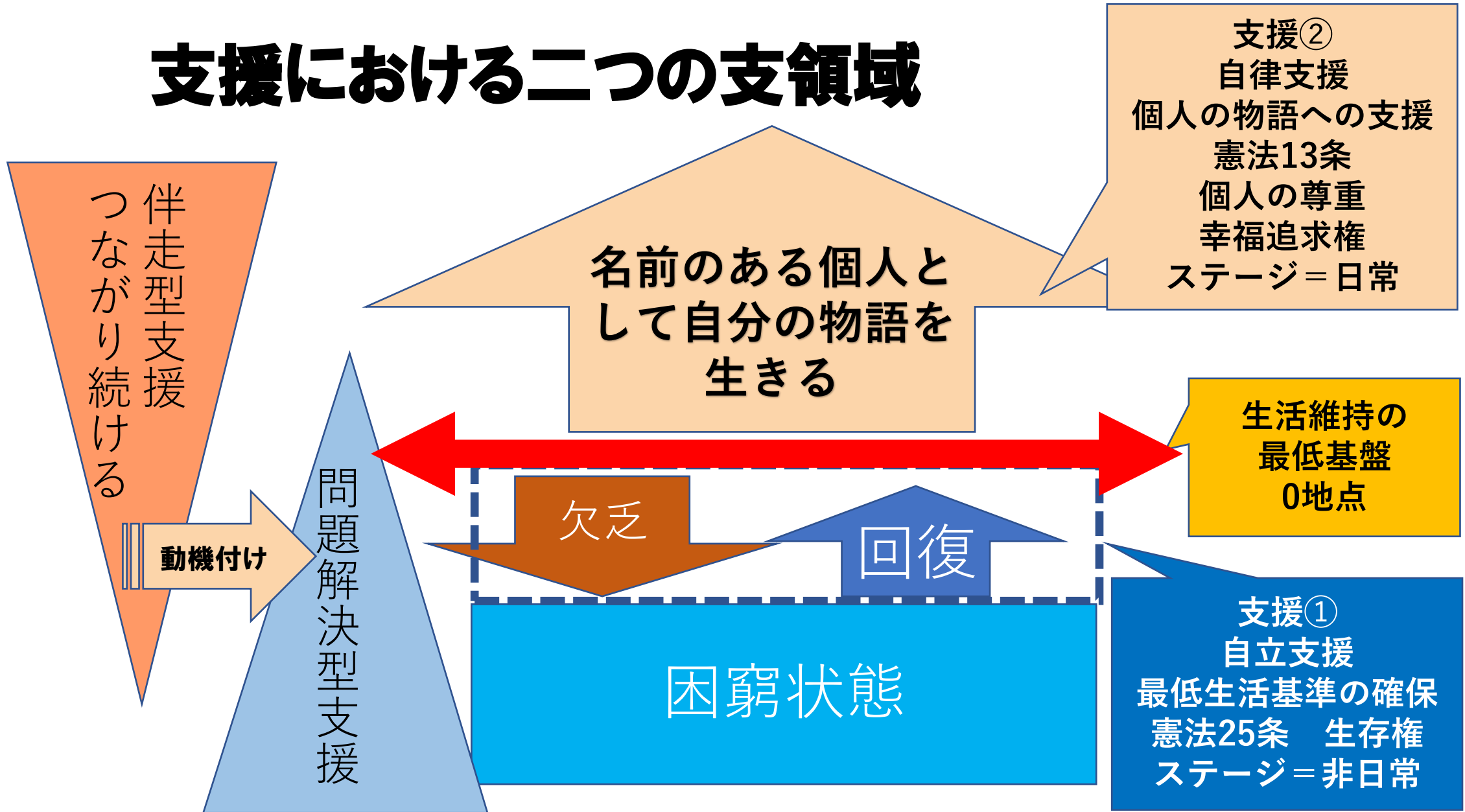
つながり

ことば

物語

意味・動機

支援における二つの支領域



家族機能の
社会化
日常というステージ

家族の基本機能

- ①気づき
- ②つなぎ

抱樸の 地域互助会

①誰でも入会可能

年会費6000円(月額500円)

②会員数270名

内当事者:なかまの会 100人

③世話人20名 見守り活動(定期訪問)

④年間行事

バス旅行、花見、新年会、誕生日会

⑤サロン、卓球、カラオケ、かふえ

⑥看取りと葬儀 互助会葬と偲ぶ会(追悼集会)

⇒大家の安心へ

地域互助会👉地域の中ででのささえあい



互助会葬・偲ぶ会

👉 葬儀は家族の役目？





**地域共生社会とは？
…赤の他人が葬儀を出し合う社会**

下関駅放火事件



0120-4343-81

読売新聞

号外

JR下関駅全焼



店舗含め3000平方メートル焼失

山陽・山陰線
運転見合わせ



【山口県下関市】JR下関駅が11日午後1時30分ごろ、駅舎の2階部分から火災が発生し、約1時間燃えつづけた。駅舎は約3000平方メートルにわたって焼失した。JR西日本によると、火災発生後、山陽・山陰線の下関駅～下関駅間が運転見合わせとなった。駅舎は約3000平方メートルにわたって焼失した。JR西日本によると、火災発生後、山陽・山陰線の下関駅～下関駅間が運転見合わせとなった。駅舎は約3000平方メートルにわたって焼失した。JR西日本によると、火災発生後、山陽・山陰線の下関駅～下関駅間が運転見合わせとなった。

下関駅放火事件の経緯

■ 2006年1月7日午前1時50分出火

■ Fさん 当時74歳

■ 放火理由「行く場所がなく刑務所に戻りたかった」

■ 北九州市⇒保護申請拒否・隣接市までの切符

■ NPO法人抱樸(当時ホームレス支援機構)の対応

1月3日 新年炊き出し

問題解決も重要だが相談の有無が最重要

■ 放火は罪

しかし、あの日の選択は存在したか？

事件の経緯

■1月3日 友人を訪ね福岡へ

⇒道に迷い①警察官によって保護される。警察署にてカップ麺をもらい再び小倉へ向かう

⇒途中具合が悪くなり②病院へ救急搬送。入院なし。対応は③福津市福祉事務所。隣接の水巻市までの電車の切符を渡す

■1月4日 福津市から水巻市、さらに北九州

⇒北九州市④戸畑区役所に相談。対応なし。

⇒①スーパーで万引き・・⑤戸畑警察署へ。逮捕なし。

⇒戸畑署警察官にJR南小倉駅に送ってもらう

⇒当日は小倉で野宿

事件の経緯

■1月6日 小倉

⇒②再び万引き 自ら店員に告げ⑥小倉北警察署に行く。逮捕なし。

⇒小倉北警察署により⑦小倉北福祉事務所に連れて行かれる

⇒小倉北福祉事務所は、下関駅までの交通費をわたす

⇒下関駅へ移動

■9時間後1月7日 午前0時 ⑧下関鉄道警察から構内から退去を求められる

⇒午前1時50分 下関駅放火

※出所からの8日間に8つの公的機関と接触。

※二回の犯罪(刑務所に行くための行動)

しかし、根本的な対処なし。

NPO法人抱樸の対応

■1月9日 奥田が下関警察署を訪ねるが会えず。
差し入れのみ。

■2006年1月27日 起訴

■1月30日 拘置所面会(最初の面会)

⇒犯行の動機

⇒放火について一なぜ放火なのか？

⇒はじめに聴く三つのこと

1)人生で一番つらかった日

2)人生で一番良かった日

3)これからどうしたい

おかえりに向けた動き

①2015年秋⇒**仮出所嘆願**提出(奥田)

【専門家による**質的支援**】

②2016年春受入準備開始 **総合ケースカンファレンス(専門職中心)**

(1)保護観察所 (2)保護司 (3)北九州市精神保健センター

(4)抱樸館館長 (5)NPO生活サポートセンター

(6)NPOデイサービス担当 (7)KP引受人 (8)福岡県定着支援センター

③**2016年6月2日 仮出所**(北九州医療刑務所移送後)

⇒奥田宅にて生活開始(二か月予定)

④精神保健センター三井所長(**当時・医師**)による面談

【つながりによる**量的支援**】

⑤抱樸や教会で**友人ができる ボランティア参加へ**

⑥**デイサービス抱樸通所**開始(抱樸館内)

⑦二週間後、抱樸館での**お試し宿泊開始**

⑧8月3日 満期！！**抱樸館へ転居**

⑨8月25日 **下関駅訪問 謝罪** (駅の対応に感謝！)

⑩2017年6月15日 生活保護決定(それまでは貯金で対応)

外観



玄関



事件から7年後
2013年抱樸館北九州開所

居室30室、デイサービス、一般向けレストラン
生活サポートセンター、ボランティア本部

◎制度で分けしない施設の必要性
⇒ 第二種社会福祉施設（無料低額宿泊施設）
⇒ 障がい、高齢、女性、世帯等、支援が必要があれば、どんな人でも受け入れることが可能。

食堂



デイサービス



■問題解決型支援⇒アセスメントとプラン中心

主訴の明確化⇒焦点化・人を問題で捉える

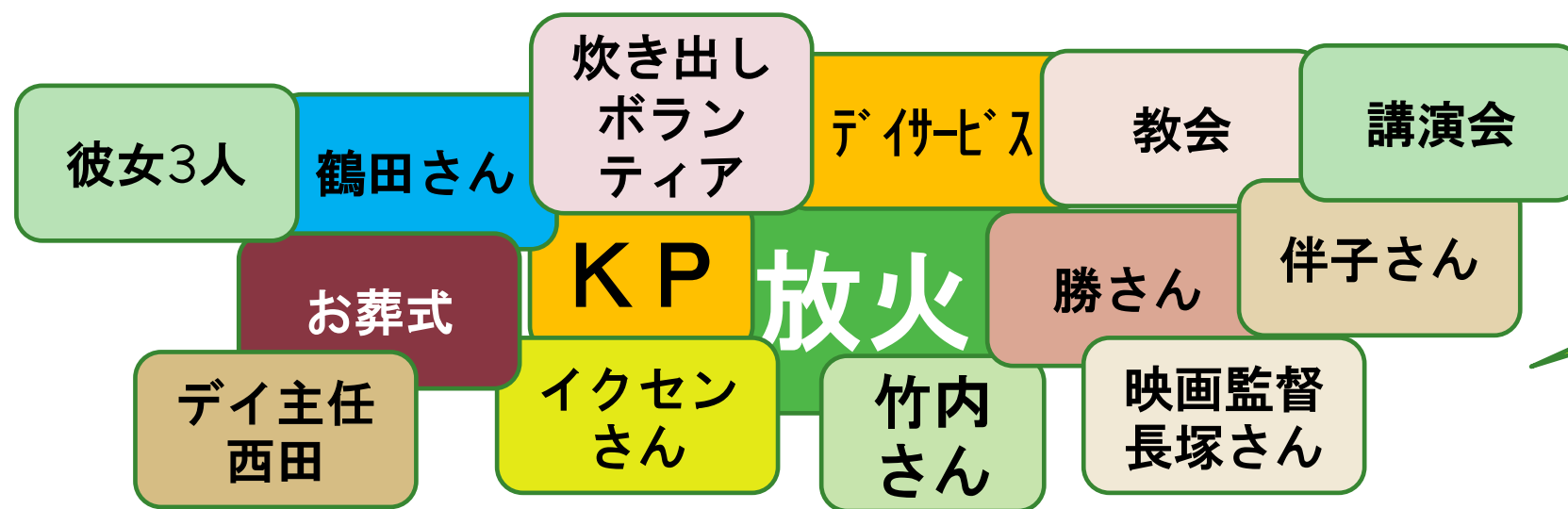
■伴走型支援 その人全体で捉える

ごまかしの支援⇒質より量・相対化

相対化⇒つながり・ステージ・関心を増やす

例) 前科11犯放火 第一段階専門職に因るケース会議

第二段階（日常化）・・・相対化・質より量



ごまかす

■伴走型支援
⇒つながりの支援

■つながり
⇒他者の存在

■伴走型の成果
⇒その人の中に何
人の他者が存在す
るか。

※他者が生きる意
味や倫理を与える



二〇一六年七月 抱樸デイケアにて
七夕短冊作成

「自分のしあわせ みんなのしあわせ」

福田九右衛門



福岡県地域生活定着支援センターの概要

- 実施主体 福岡県
- 受託法人 NPO法人抱樸
- 事業開始 2010年7月～
- 事務所 福岡市内（福岡西総合庁舎2階）
- 職員数 11名

地域生活定着支援センターの主な業務

コーディネート業務

保護観察所からの依頼に基づき、特別調整対象者や一般調整対象者の福祉的なニーズを確認し、受け入れてもらえる福祉施設への受入調整、また、必要な福祉サービスを受けることができるよう申請手続きの支援をします。

フォローアップ業務

矯正施設を退所した後、受入れ先施設等の利用を開始した方に関する相談を受け付けます。具体的には、聞き取り調査や訪問、関係者が集まりケアについての検討を行う会議を開催します。

相談支援業務

福祉サービス等の利用に関する本人や関係者からの相談に対して、助言や必要な支援を行います。具体的には、本人や親族、支援者や連携先関係機関等からの相談対応、福祉施設や保護観察所等との連携を行います。

被疑者等支援業務

刑事司法手続きの入口段階にある被疑者・被告人等で高齢、障がい、生活困窮又依存症等により自立した生活を営むことが困難な者に対して、釈放後ただちに福祉サービス等を利用できるように支援します。※2021年度から開始

福岡県地域生活定着支援センターの実績

【累計依頼総数】（2010/7～2023/11）

960件

【2022年度・新規依頼件数】

■ 出口支援 61件

- ① 特別調整：58件（うち他県定着センターからの依頼13件）
- ② 一般調整：2件
- ③ 相談支援：1件

■ 入口支援 46件

- ① 被疑者等支援業務：2件
- ② 相談支援業務：41件（検察庁3件 弁護士会37件 その他1件）
- ③ 指針外：3件

➤ 出口・入口支援ケース合わせて、年間100件程度の新規依頼

「福岡地域生活定着支援協議会」について

活動開始

2017年2月～

会員数

79団体・個人 ※2023年3月末現在

会員内訳

- 高齢者施設（養護老人ホーム・有料老人ホーム等）
- 更生保護施設
- 自立準備ホーム
- 障がい者施設（グループホーム・障がい者支援施設等）
- 救護施設
- 相談支援事業所
- 自立相談支援事業所
- 介護事業所
- 司法関係機関
- 医療機関
- 不動産会社
- 個人会員など

主な活動内容

- 定期総会（年1回）
- 世話人会（年6回）
- 勉強会、他機関連絡協議会出席
- 矯正施設、福祉施設視察
- 地域毎のネットワーク構築（福岡、北九州、筑豊、筑後ブロック会）

抱樸YouTubeチャンネル 登録ください！ 現在1万6000人突破



YouTube抱樸チャンネル
刑務所に戻りたかった ①・②
ゲスト 長塚 洋監督

刑務所に 帰りたかった — 下関駅放火を考える



映像ディレクター／映画監督
長塚 洋

NPO法人抱樸理事長
奥田 知志



#ほうぼく



**2023年
10月16日[月]
20:00**

ほうぼくチャンネル

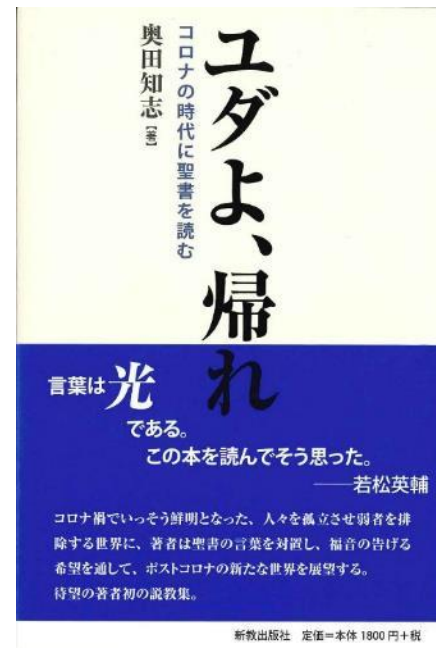
#刑務所に戻りたかった — 下関駅放火事件を振り返る 長塚洋(映画監督)x 奥田知志(抱樸理事長)



有斐閣
2200円



本の種出版
2200円



新教出版
1980円

新刊が出ました！
収益は、NPOの支援に充てられます。



ご清聴ありがとうございました